

# 生物多様性ひょうご戦略の構成

## 第1章 戦略策定にあたって

①戦略策定の趣旨

②戦略策定の目的

③戦略の性格

④戦略の期間

## 第2章 生物多様性をとりまく情勢

①生物多様性とは

②生物多様性がすべての生物にもたらす恵み

③生物多様性の危機

④生物多様性に関わる国内外の動向

## 第3章 ひょうごの生物多様性

①自然環境

②風景・景観、特産物、伝統文化、伝統工芸

## 第4章 生物多様性の取組と課題

①生物多様性を保全・再生する取組

②これまでの取組の評価

③これまでの取組の課題

## 第5章 戦略の理念と目標

(理念) すべてのいのちが共生する兵庫を私たちの手で未来へ

いのちの大切さを基本に、参画と協働のもとで多様な生物を育む社会

目標

人の営みと自然が調和し、多様な生物のいのちのつながりと恵みが循環・持続する社会

地域性豊かな自然と文化を守り育てる社会

## 第6章 行動計画

①すべての事業で生物多様性の視点を持つことができる仕組みの確立

- 生物多様性配慮指針の作成
- 新たなレッドデータブックの策定
- 外来生物対策の推進
- 生物多様性アドバイザーの設置

③人の営みと生物多様性の調和の推進

- 生物多様性に配慮した農林水産業の振興
- 野生動物の保護管理の推進
- 遺伝子資源の適正利用の推進
- 防災機能と生物多様性との調和の推進
- 地球温暖化への対応

②参加と協働による生物多様性保全活動の推進

- NPO等の活動支援
- 生物多様性の重要性に関する県民等への普及啓発
- 環境学習を通じた生物多様性に関する理解の促進
- 企業のCSR活動等への支援

④行動計画を支える基盤整備

- 生物多様性支援拠点の整備
- 生物多様性保全のための予防的措置の充実
- 生物多様性に係る重要地域保全のための国際的な仕組みの活用

## 第7章 戦略の効果的推進

①戦略の推進体制 (庁内、市町、NPO等の民間活動団体、企業、国、近隣府県との連携)

②行動計画の行程表・数値目標及び点検評価

- ・ 生物多様性配慮指針の作成 (H22)
- ・ 16分類の新たなレッドデータブックの策定 (H28)
- ・ ブラックリスト、外来生物防除マニュアルの作成 (H25)
- ・ 支援拠点の立ち上げ (H21)
- ・ 生物多様性アドバイザーの登録人数 100人 (H25)
- ・ 生物多様性ネットワークに参画するNPO等の数 100団体 (H25)
- ・ 生物多様性シンボルプロジェクト 50プロジェクト (H25)
- ・ 生物多様性指導者養成数 300人 (H25)
- ・ 企業のCSR活動等のコーディネート件数 50件 (H25)
- ・ 農村ボランティア数 6,000人 (H27)
- ・ 森林ボランティア数 12,120人 (H27)
- ・ 地域ぐるみで農村環境保全活動を実施する集落数 2,200集落 (H22)
- ・ 里山林の再生 16,000ha (H27)
- ・ 県内藻場面積 2,050ha (H27)

県内のすべての生物種の健全性を保つ

兵庫県レッドデータブックにおいて絶滅の危険性を示すランク(A~C)ごとに掲載している生物種について、現在のランクからの変動状況を把握することにより、すべての生物種の健全性を評価する